

・展開科目では、地域課題の解決に向けた高度な専門性、実践意欲と協働性を養うため、地域創造、国際地域文化、発達科学、学習科学の分野毎に、演習、実習を含む多様な科目を設けます。

・基幹科目では、当該分野の研究方法論を個別指導によって鍛えるため、「特別研究」を必修科目として設けます。

・研究遂行に必要な高い倫理観を養うため、必修科目として研究者倫理に関わる科目を設けます。

2. 教育方法

・講義系科目も含め、教育課程全体として実践研究やフィールドワーク、協働的学びを重視して授業におけるコミュニケーション力の修得と主体的で深い学びの実現を目指します。

・少人数教育と個別指導を重視して、複数の専門性の異なる教員による密度の濃い研究指導により、高度の課題発見・解決力の修得を目指します。

3. 学修成果の評価

・専攻の定める成績評価基準に基づき、各科目の学修成果を評価します。

・修士論文審査では、専攻の定める学位論文審査基準による審査及び試験の結果に基づき、修士論文の新規性と独創性等を厳正に評価します。

・学生の学修成果とアンケートをもとに、教育課程を検証します。

※ eポートフォリオ

鳥取大学では、学生の QOCL（クオリティ・オブ・カレッジライフ）向上をサポートするため、eポートフォリオを全学で運用しています。学修活動の振り返りによる能動的学修の促進、キャリア形成の支援などに活用することができます。

【eポートフォリオについて】 <https://www.tottori-u.ac.jp/campuslife/class/e-portfolio/>

3. 地域学専攻における修士論文の審査基準（ガイドライン）

1	問題の意義が明確か
2	先行研究の吟味ができているか
3	方法が妥当か
4	論文の構成は適切か
5	論理的に展開されているか
6	証拠に基づき客観的に分析・考察・記述がなされているか
7	結論は妥当か
8	新たな知見が得られているか、独創性はあるか
9	引用・注記・文献の表記などの作法、文章表現・表記は適切か
10	学術的波及効果はあるか、幅広い意味で社会への貢献はあるか
研究倫理を遵守して研究および論文執筆が為されていることを前提に、以上の観点にもとづく評価を総合して論文の評価とする。	